

加古川「知」を結ぶプロジェクト

甲南大生が行政に提案

甲南大学(神戸市東灘区)の学生が、加古川市内の企業や行政の課題解決に取り組む「加古川『知』を結ぶプロジェクト」の成果報告会が8日、JR加古川駅北側の「ウェルネージかこがわ」で開かれた。写真。経済や知能情報学部のゼミ生らでつくる5チーム約60人が、調査内容や解決に向けたアイデアを発表した。

加古川市と甲南大、神戸新聞社が取り組む事業で4年目。学生は昨年9月から

市や企業が抱える課題を聞き取り、アンケート調査をした上で対策を練った。

最優秀賞に選ばれたのは知能情報学部の「岳ゼミ」。「イベントや行政の情報が市民に届きにくい」という市の課題を受け、スマートフォン用のアプリを試作した。イベントの予定を地図で見られるようにし、さらに公民館に行くと、今後の催しや関連情報が無料通信アプリ「LINE(ライン)」で届くようにした。

同ゼミの4年生住友千将ちゆまのちかむねさん(22)は「ユーザーの使いやすさを考えて工夫した。評価してもらえて何より」と喜んだ。

このほか、東京五輪に向けて市民の機運を盛り上げるイベントや、ギフト販売会社が妊婦をターゲットにシリアルを販売する戦略など幅広い提案があった。

(小森有喜)

